

【標津町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(令和3年1月)では、「令和の日本型学校教育」の姿を「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」としている。

急激に変化し予測困難な情報化社会に児童生徒が適応するためには、主体的に学び続ける課題解決能力や探求的に学ぶ能力が必要となる。GIGAスクール構想にて整備された1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワーク等を通じたデジタルコンテンツの活用能力の育成と合わせて、対面や体験といったアナログ的な学びとのバランスのとれた教育活動を目指す。

2. GIGA 第1期の総括

令和2年度に1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワークを整備した。令和3年度より情報通信技術支援員(ICT支援員)を配置しており、各校での訪問支援を4校合計で年間190回程度実施し、教職員及び児童生徒のICT機器活用のサポートを行ってきた。令和4年度からは電子黒板の整備を進め、現在では各校各学年に1台電子黒板が整備されている。また、令和5年度からは教職員向けICT関連集合研修を複数回実施している。

GIGAスクール構想の実現に向けたこれらの整備や取組により、教職員、児童生徒にとって1人1台端末はいつでも・どこでも・自由に使える文房具のような存在となり、端末を使った調べ事、作品作り、グループ学習や情報共有が日常となった。児童生徒の特性に合った活動により、表現方法の幅も広がり授業も活発になっている。

しかし、以下のような課題がある。

- ①教職員間、学校間での端末利活用状況の格差
- ②電子黒板の活用に余地がある

上記の解決策として、以下が挙げられる。

- ①ICT関連研修の継続的な実施により、教職員のICT活用能力向上を図る。

3. 1人1台端末の利活用方策

上記「1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿」「2. GIGA 第1期の総括」を踏まえ、「教育DXに係る当面のKPI」における「1人1台端末の積極的活用に向けた目標」「個別最適・協働的な学びの充実に向けた目標」及び「学びの保障に向けた目標」を念頭に置き、以下の方策を講じる。

端末の利活用の前提として、GIGA第2期の端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持する。

◆情報通信技術支援員(ICT支援員)による活用支援を継続する。(4校/人)

現在は年に複数回各種集合研修、学校訪問サポート(4校で年間190回程度)等を行っている。支援内容は年度当初及び都度検討する。

◆デジタルドリル(Qubena)の活用を継続する。

個別最適な学びの実現、学力向上のため。また、宿題や自主学習に活用することで、教職員の働き方改革にもつながることから積極的に活用する。

◆全普通教室に整備した大型提示装置の活用を継続する。

1人1台端末やデジタル教科書のさらなる活用のため。

◆健康観察・教育相談システムを活用する。

児童生徒の心身の状況把握や教育相談を行うため、端末を活用した「心の健康観察」を行い、希望する児童生徒への端末を活用した教育相談等、適切な支援につなげる。

◆適切な端末の維持管理

学校や自宅で積極的に活用するほど、バッテリーやキーボード等端末の劣化が進むことから、必要な予備機の確保と、適切な時期の端末更新を実施する。